

1997年9月

自由南アフリカの声

No.15

Voice of Free South Africa

発行 アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

1997年9月現在の報告と予定

- 4月～9月、南アへ13176冊の本を送った。
- 1997年度ボランティア貯金配分金決定。
- 9月、ケープタウンへ2台とベノニへ1台
移動図書館車を発送。
- 11月、TAAAより南アを訪問。
- 予定、12月に報告会。

目次

MEIからの報告	2
南アの新聞に報道される	4
南アの記事紹介	4
在インド、南ア大使からの手紙	6
福井聡さんからの手紙	7
読売新聞が活動を報道	8



移動図書館車の中で (ベノニのシビト小学校にて)

M E I (Methodist Education Initiative)からの報告

デイヴ・ベントレイ

1996年7月から1997年6月までの移動図書館活動の報告

移動図書館計画は過去1年間、構想、企画そして実行と大きく動いてきた。1年前に単ある思い付きであったものが今や悪条件下にいるデベトンとエトワトワの子供たちの生活に現実的な効果を現しているのである。

スタートを切った年、図書館を駐車する場所がなく、本は箱に入ったままだった。しかし、図書館としてまったく機能していなかったのではない。1996年末までは図書館を駐車し本を保管できる移動図書館車のベースとなる建物の建設に専念した。デベトン中学校内に特別注文の建物が恩恵によくすることの少ない地元の建設業者によって建てられた。この中学校の校長はMEIの主要メンバーであり、すべての工事を監督することができた。工事中、ベノニのアウロラ・ロタリークラブがなにかと専門的な援助をしてくれた。建物はT A A A (アジア・アフリカと共に歩む会)の野田千香子と会員達が南アを訪問した折りの11月に、ハウテン州の教育省の担当官の出席も得て正式にオープンした。

1996年12月から1997年1月にかけては、ハウテン州の教育省(GDE)、図書情報サービス省(LIS)と中央図書館のベノニ地方のデレクターと共に会議を持ち、移動図書館委員会を創立した。ここに委員会は少なくとも1ヵ月に1度は会議をもち、移動図書館に関する討議をし、移動図書館活動についての指針をつくるものである。委員は、デイヴ・ベントレイ(委員長)、MEIの会員エルファス・ドベ、GDEのベノニ地方担当官のフィネス・クツメラ、GDEの情報省のノマ・ニーマンとアン・ブラウンとブシ・ドラミニ、セントアンドリュース奉仕団体のマーガレット・グレイヤーとカレン・シモンズから成っている。ハウテン州全域の情報省の長官であるエスター・ケラーも時に応じて委員会に出席し、活動を前端的に支援し、我々がしていることを他の地域に広げるよう積極的に応援している。

セントアンドリュース奉仕団体はジョハネスバーグの私立学校の一つにある慈善団体である。これは、教育条件の悪い地域の教師の指導能力を向上することを目的に個人的寄付金から成っている団体である。彼らはこの移動図書館活動が、図書館の本を有効に利用することによって教師たちを助ける一つの道であると考えている。マーガレット・グレイヤーはキャリアのある司書でとりあえず、移動図書館の図書館員として働いている。セントアンドリュースの会員3人が学校を訪問する際、教師が本の選択をするのを助けたり、本をどのように授業に有効に使うかを教えたりしている。



バスを歓迎する生徒たち
後は住宅

1997年6月末、移動図書館車はデベトンとエトワトワの二つの学校に本を配布した。すなわちデベトン中等学校とエトワトワ（図書館ベースから約15km）のトシピノト小学校である。図書システムの本の数が限られているので訪問する学校も限定されている。今は2000人の子供たちが生まれて初めての図書館の本を受け取っている。学校では本を受け取って大変な喜びようである。生徒も喜んで興奮して本に取り組んでいる。これからの1年間の予定としてはさらに小学校レベルの本（特にアフリカ人によって書かれ、アフリカで出版された英語の本）を集めたいと考えている。そうすることによってこのエリアの40校以上に巡回することができるのである。

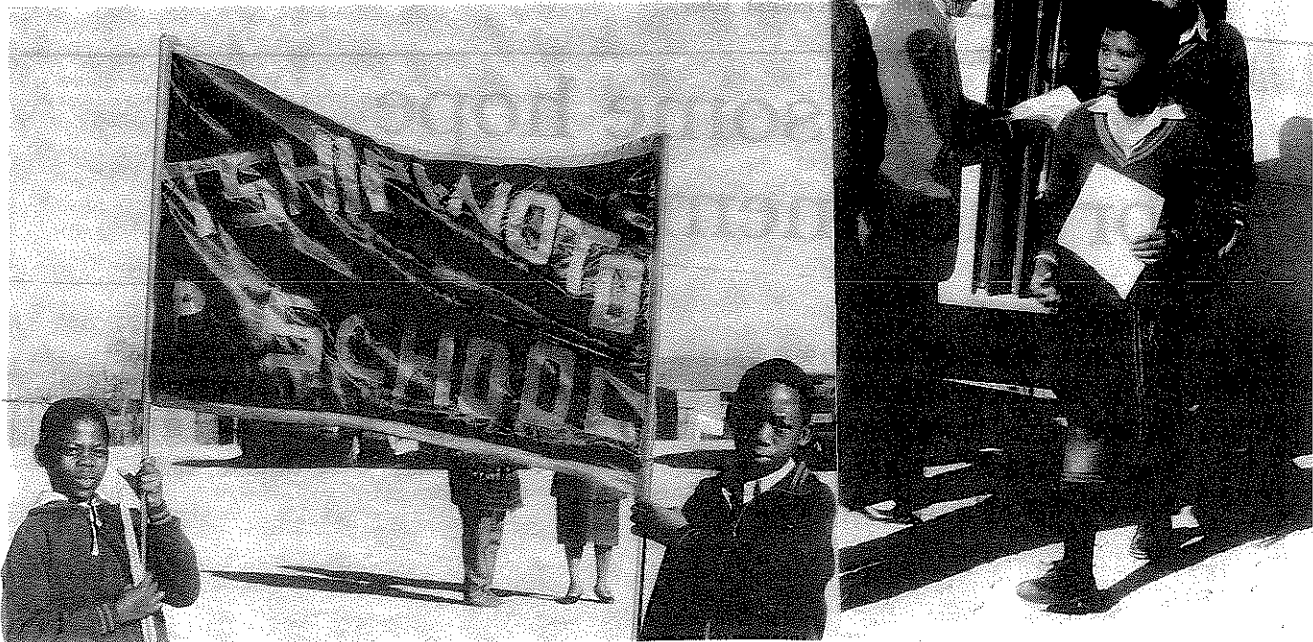
現在のところ、移動図書館システムはうまく運んでおり、図書に恩恵を受けにくい広大な地域に図書館の本を供給するのに、すばらしく効果のある方法であることを経験している。

ハウテン州の図書館情報センターもハウテン州の今後の取り組みについて彼らの政府への提案のモデルケースとしてプロジェクトに入れることを計画しているが、移動図書館活動が非常に効果的な方法であることはよく承知している。

（野田千香子訳）

編集部：今年は郵政省ボランティア貯金から、本の購入費の項目でも助成を受けられたので、南アで出版された南アの著者による本の購入リストをさっそくMEIに作ってくれるよう依頼してある。

トシピノト小学校での歓迎



南ア、ベノニの新聞に報道された移動図書館活動

The Sunbeam紙は地元の生活に密着した新聞です。TAAAとMEIの活動が報道されたので、ご紹介します。また、移動図書館が活躍する地域の人々の暮らしと向上への努力の様子が伝わる記事をいくつかご覧下さい。

THE SUNBEAMより



Another initiative to promote the culture of learning was the donation of school books to pupils at Tshipi Nopo Comprehensive School.

TAAA gives education another boost

Santy Moepye

Etswatwa -- Tshipi Noto Comprehensive School last week became the first recipient of books donated by the Japanese-based Together Africa and Asia Association.

The books are the second

major donation made by TAAA, which provided schools in Daveyton with a mobile library bus earlier this year.

Both the books and the bus were donated in Asia and shipped to South Africa for use by all the schools in Daveyton.

The project was initiated

by the Methodist Church, through its Education Initiative, and is run in partnership with the Gauteng Department of Education.

Project coordinator and librarian Margaret Grayer said the books would be used on a shared basis and rotated amongst the schools.

日本語訳

南アフリカのベノニの新聞The Sunbeam 1997.6.27より

TAAAが教育に応援を送るサンテイ モエフェ記者 エトワトワ・トシピノト総合学校は、先週日本のTAAA(アジア・アフリカと共に歩む会)が寄贈した本の最初の受け取り手となった。

TAAAは今年初頭、デベトンに移動図書館車を送っており、本は第2番目のビッグプレゼントとなった。デベトンにある学校で活用される目的で、本と移動図書館車は、アジアから南アフリカに向けて海を渡ってきた。

このプロジェクトはハウテン州の教育省の援助の下に、メソジスト教会のMEI(Methodist education Initiative)が行なっている。

プロジェクトのコーディネーター兼司書であるマーガレット・グレイヤーは「本は学校間で順番に利用されることになる」と話している。

(写真の下)トシピノト総合学校の生徒たちに送られた本は学習の習慣を根付かせ、促進するのに貢献している。(程塚明子訳)

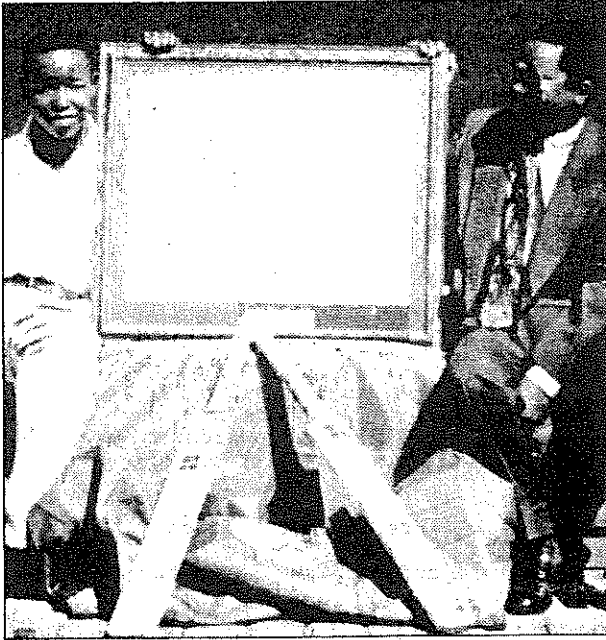
There is some hope for the unemployed

★失業者へ希望の光

ワットビル・解散した南アフリカ失業者組合の40人の元組合員が代表して、水曜日に行なわれたルビコン社の警備員養成講座を受講した。ルビコン社の事業部長であるピーター・バン・レンズバーグ氏は、この講座を最後まで

受講さえすれば誰もが採用されるだろうと述べた。さらに、氏はルビコン社は日常的に警備員を必要とする40社と密接に連絡を取り合っていると述べた。(増山久一郎訳)

School benefits from pupil's 'dream home'



Mbuti Nkadimeng, a Grade 12 pupil at Solomon Motlana Primary School, has won R5 000 towards his education in the "Inkomazi My Dream Home" competition. Presenting him with some of the sports equipment won by his school is the company's group manager, Melville Radebe (left).

Etzwatwa will see the light

南アフリカのペノニの新聞The Sunbeam 1997 . 6. 27

★エトワトワに明るい兆し

ペノニ・ペノニ市議会は市内の開発の遅れている住宅街へ電気を送るため750000ランド(約千9百万円)以上の予算を組むことにした。この知らせは犯罪の多発に悩む同地域にとって朗報と思われるが、市議会の犯罪撲滅対策の一環である。

街灯が設置される地域はほとんどの強盗事

★生徒たちの『夢の家』から学校が得るもの
モルガン サンボ記者

ワットビル・ソロモン モトラナ小学校は1997年のインコマジ「私の夢の家」大会で最優秀賞に選ばれた。

南ア、インコマジクローバー制作主任のメルビル・ラベデはソロモン小学校で行なわれ華やかな授与式で表彰状を授与した。

全国規模のこの大会は自分の「夢の家」を絵にして提出するよう生徒によりにかけたところ、今年の大会には72校から4千点の参加があった。

ソロモン モトラナ小学校は7500ランド(約20万円)分の運動用具を、また優勝者のムプチ ヌカデミアン(12年生)は学費として5千ランドを獲得した。

ダニエル マツララ校長は運動用具によって、生徒たちは初めてスポーツにふれることができるようになり、彼らが放課後、積極的に学校に残ってスポーツを楽しむことが非行の防止に役立つと喜んでいる。

「若くて才能豊かなヌカデミアンの快挙は称賛に値するし、またその 褒美は我々みんなに分け与えられることはすばらしい」と校長は述べた。

来年度の大会に参加したい学校はシレーダヤンセン(888-7496)に連絡して下さい。

(浅見克則訳)

件やその他が発生しているくらい路地や空き地がある場所である。

75万ランドの予算の大半に当たる50万ランドがエトワトワや隣接する無断居住地域の通りに街灯を設置するために利用される。

残りの予算はアポロ電灯の設置を含むタンポビルへの電気供給の改善に向けられる。

(増山久一郎訳)

1994年までANC東京事務所代表だったジェリイマツイーラ氏からの手紙です。全国で反アパルトヘイトの講演を展開したマツイーラ氏をなつかしく思い出される方がたくさんおられるでしょう。今は南ア大使としてインドのデリーにいます。

JERRY M. MATSILA
HIGH COMMISSIONER TO INDIA



SOUTH AFRICAN
HIGH COMMISSION

25 July 1997

Ms Chikako Noda
Together with Africa & Asia Association
c/o NODA
5-17-1, Oto, Yono-Shi
Saitama 338
Japan

Dear Chikako

My heartfelt greetings to you, your husband and boy. Chikako, may I from the very outset say how much I have always been proud of you, your modesty, selflessness and contribution towards making life a little happier to the less unfortunate section of our society.

I am very happy with your on-going projects in South Africa.

I am also glad to see that you have expanded your work in the two Provinces, Gauteng and KwaZulu Natal.

I hope the mobile library project will help in the culture of learning among our people and open opportunities for better future.

Thank you for the regular newsletter.

Convey my greetings to all members and supporters of Together with Africa and Asia Association.

All the best and carry on soldier.


JERRY M. MATSILA

拝啓 野田 千香子様

お元気ですか。ご主人と息子さんはいかがお過ごしですか。私は常日頃から貴女の謙虚さ、無私なお気持ち、そして私たちの国の恵まれない人たちの生活を少しでも良くしていくことへの貢献に対して、大変誇りに思っています。

南アフリカでの貴女の現行プロジェクトにはとても満足しています。また、プロジェクトがハウテン州とクワズール・ナタール州で拡大していることを知り喜んでおります。移動図書館車プロジェクトが南アフリカ人の学習を根付かせる文化を向上するのに役立ち、よりよい将来への機会を切り開いてくれることを望んでいます。

定期的に送って下さるニュースレターどうもありがとうございます。

「アジア・アフリカと共に歩む会」のメンバーと支援者の方々によりしくお伝え下さい。

敬具

1997年7月25日

ジェリー・マツイーラ
インド駐在 南アフリカ共和国大使

(久我祐子訳)

毎日新聞元ヨハネスバーグ支局長

福井聡さんからのおたより

「『アフリカが遠くなってしまおう』と聞くと、さびしい気持ちになります」。4月の異動で名古屋勤務となり、日常の暮らしの中でアフリカが遠ざかっているというエッセイを書いたら、早速、野田さんからお叱り（励まし）のお手紙を受け取った。だから新聞はこわい。どこで誰が読んでいるかわからない。

新聞社の特派員は、よほどの事が無い限り、1度行った任地に再び駐在することはない。特にアフリカなどは、（日本の新聞の場合）若い記者が掛けずり回って情報を取る訓練の場とみられ、中年以上が2度目に行く地ではない。5年間の駐在を終えて帰国し、日常生活の余りの違いに、日本で暮らす自分の中にアフリカをどう位置付ければ良いのか戸惑い、いまだに迷い続けている。

「アジア・アフリカと共に歩む会」は、私がアフリカにいたころ、最初は「アフリカに英語の本を贈りたい」という活動で話をうかがった。やがて、その本を遠隔地に巡回させる移動図書館用の中古バスを贈りたいという話に発展し、最近の会報にはバスの受入れ団体の南ア人との交流がしばしば登場するようになった。実は、最初に本を贈る話を聞いた時、内心、「いつまで続くかな」と冷めて見ていた。食料、医薬品、毛布、カネ、…と、アフリカにモノを贈る話はいっぱい転がっている。そして、多くはどこに届くかウヤムヤで、やがて消えて行く。私には「モノだけを贈っている限り援助は続かない」という確信に近いものがあった。

ところが、歩む会は違った。バスを贈る時も関税手続きなどの障害に散々手こずったが、粘り強く取り組み、ついに寄贈ルートを確立した。贈られたバスがどう使われているか現地に見学に出掛け、現地NGOとの交流が始まった。5月号の会報によると、ELETのジ

ェーンさんが来日し、熊谷図書館で移動図書館の研修をしたという。こうした人的関係が続けば、この活動はきっと広がると思う。モノを贈るだけでなく、障害にぶつかって一つずつ乗り越え、一の交流が始まれば、そこから南ア社会が見えてくる。「南アって白人が黒人を押さえつけていると聞いたが、白人の中にも優しい人がいるんだな」「でも白人の役人って能率悪いな」「黒人は被害者ときいたが、どうして犯罪に関わる人が多いのか」「黒人政権になってどうなるのだろうか」…。日本人にとって、あの社会は謎だらけだと思う。そうした背景が分かってくる中で、本を贈るという活動を続けることが一層、光ってくる。

日本の日常と極めて異なるアフリカに、日本人がどう関わるのか。関わる必要性はないし、現実に関わる人は少ない。一番大切なことは、無理をせず続けられる範囲で関わることだと思う。日本で余っている本や車を贈り、そこから生まれる問題に取り組み、広がる交流に加わる。もちろん、どこかで無理をする場面があるかもしれないが、全体の流れを楽しむ気持ちを忘れないように。

歩む会の活動に教わりながら、私も今後、アフリカとどうつきあうか考え続けたい。

以上

編集部より

福井さんはTAAAが初めて南アを訪問した折り、ジョハネスバーグ近郊のデベトンでの本の配布作業を取材して報道して下さいました。その後、移動図書館車を送付することになり、現地通産省との込み入った手続きを完了するまで仕事を越えて、連絡等に協力して下さったのでした。TAAAとしては現地駐在員を持っていないため、実に心強い助っ人で頼りにしていました。福井聡さんの著書「アフリカの底流を読む」（ちくま新書）は興味深いアフリカ論です。

与野の「アジア・アフリカと共に歩む会」

3年前から南アフリカに本、移動図書館寄贈

今年も4500冊、3台

南アフリカの子どもたちに、定期的に図書を送りつづけている与野市大戸の市民グループ「アジア・アフリカと共に歩む会」(野田千香子代表、会員約千人)が、今年も現地に約四千五百冊の本と、移動図書館三台を送ることに



これまでに贈られた移動図書館の前に集まる子どもたち

「いろいろな世界知って」

活動知った全国の人々から提供も受け

移動図書館三台はいずれもマシロバス大で、所沢図書館と練馬区内で使われていたもの。十月十日に南アフリカのダーバン港に到着し、ケプタウンに二台、首都ヨハネスブルクから南東に約三千キロのベンツに一台が送られる予定だという。続けて、すべて英語で書かれた約四千五百冊の辞書や絵本、童話などを送ることにしており、現在八十八箱にのぼるダンボール箱に詰め込む作業を進めている。

「歩む会」は、学習塾講師の野田さんがアフリカの支援活動に関心のある知り合いとともに始めた。一九九四年四月に設立され、最初はパルトヘイト(人種差別)時代に学校にも行けなかった大人たちのための職業訓練の一環である識字テキストとして、日本の中学校の英語の教科書を送っていた。その後、同会の活動を知った全国各地の約八百人から辞書や絵本、都内のアメリカンスクールからは教科書などが寄贈されるようになり、活動の幅も広まった。

これまでに送った図書は約十萬冊。移動図書館は今回の分を含めると計七台となった。特に子ども向けの絵本や童話が喜ばれているが、一件費やガソリン代など車をスムーズに動かす資金が不足気味だという。問い合わせなどは「歩む会」(048-832-8087)まで。

編集後記

- ★昨年初秋に入手した移動図書館車3台がやっと9月に出港となりほっとしています。大阪商船三井船舶(株)のおかげで大型車3台をダーバンまで運んでくれる船が決まったのです。その間数か月、バス3台を預かって下さった(株)トヨタオート東埼玉にも大変お世話になりました。
- ★しかしやっと見つかったバス輸送船を逃すことができず、送り出すことになったのですが、実は南アの通産省の輸入関税免税許可証の期限が切れてしまったのです。延長を申請しながらの発送となります。
- ★全国の郵便貯金の利子の一部であるボランティア貯金の配分金が今年も受けられることになりました。多くの団体の中から選ばれたこと、皆さんの利子であることを考え、大切に使用させていただきます。
- ★配分金の一部でアフリカ人の書いた現地出版の本を買うことができるのが楽しみです。

- ◆多くの方から英語の本をいただき、感謝しています。本は一旦近くの倉庫へ保管して月に1回位集まって荷を解き、梱包し直します。そうした事情ですので手紙や寄付金などは必ず別便でお送り下さるようお願いいたします。
- ◆ニュースレターは会にこれまで協力して下さいました方にお送りしていますが、ご不要の方は電話、Fax、ハガキなどでご一報いただければ幸いです。

自由南アフリカの声 第15号 1997年9月15日発行
 新所 アジア・アフリカと共に歩む会
 〒338 埼玉県与野市大戸5-17-1 野田方 Tel 048-832-8271
 Fax 048-832-3607
 郵便振替:「アジア・アフリカと共に歩む会」00100-4-608515
 新人 野田千香子 編集 久我祐子